

2024年4月発行

# ひのみやぐら

本田消防団だより 第64号



## 令和6年 本田消防団始式開催

### コロナ禍明けの初の開催

令和6年1月7日(日)、『テクノプラザかつしか』にて、本田消防団始式が開催されました。

コロナ禍が明けて初の開催となった今回の始式は、昨年より規模を拡大。約150名の団員と署員のほか、多くのご来賓の出席のもと、厳粛に挙行されました。

地域のみなさまの安全のため、コロナ禍には団員からも人と人との接触を極力減らしていましたが、コロナが終息しつつあった令和5年中には徐々に活動を活性化。いざというときに備えて、これまで以上に団員同士の絆を深めることに注力してきました。

今後とも、地域のみなさまにとって頼れる存在となるよう精進いたしますので、変わらずご支援・ご協力をお願いいたします。(団本部)



### 危機管理の重要性を 実感した年明け

令和6年は元日の能登半島地震、そして翌日の羽田空港での航空機衝突という大きな事故とともに幕を開けました。

改めて、震災や事故は突然起こり得るということと、危機管理の重要性を確認した次第です。

被災されたみなさまには心よりお悔やみとお見舞いを申しあげると同時に、一日も早く復興がなされることを願うと同時に、私たちが今できることについて考えていきたいと思っています。

今年の干支は甲辰です。古い殻を破り、新たな始まりやチャンスが訪れる年とされています。

消防団一同、龍が空を昇るがごとく、力強く地域のみなさまの安全・安心に貢献していきたいと思っています。

令和6年が葛飾区地域のみなさまにとりましても、素晴らしい一年となりますよう祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(本田消防団団長 古沢良司)

### 団員一同の凜とした御姿に 身の引き締まる思いに

このたびは、団歴40年の家族功労賞を賜り、心より御礼申し上げます。

30年、40年と2度も賜ることができ、とても光栄です。ここまで続けてくることができ、ひとえに周りのみなさまの御理解と御協力があったことです。みなさまの日々の積み重ねに心より感謝と御礼を申し上げます。

そして、始式に出席させていただきました。みなさまの凛とした御姿に感動し、私も身の引き締まる思いでした。

今年は、災害に始まりました。地域を守る活動をがんばっている、本田消防署、本田消防団の益々の御発展と御活躍を心よりお祈り申し上げます。

(第8分団分団長 矢島和夫 令夫人 矢島 優子)



### 子どもたちに憧れられる カッコいいママでいたい

私が消防団への入団を希望した理由は、勤務先の社長が消防団員として活躍している姿に感銘を受けたためです。

あるとき、勤務時間帯に近所で火事が発生したことがありました。すると、社長はすぐさま防火服に着替えて現場へ駆けつけたのですが、その姿が私の目にとってもかっこよく映ったのです。

直感的に、「私も消防団員として地域のみなさんの役に立ちたい!」と思いました。私が社長に対して感じた気持ちと同じように、子どもたちから、「ママがかっこいい!」と憧れの気持ちを抱いてもらえるよう、初心を忘れず努力を続けていきたいです。

(第14分団団員 池田 晴美)



# 受賞者一覧

## 【消防総監賞】 優良表彰・竿頭級 本田消防団

- 功績表彰団員(6名)  
横井 崇 第1分団 副分団長
- 行木 秀仁 第3分団 副分団長
- 遠山 正行 第3分団 副分団長
- 上林 好昭 第5分団 副分団長
- 荻原 均 第13分団 副分団長
- 市村 收 第15分団 副分団長

## 優良表彰団員(18名)

- 朝倉 達也 第1分団 団員
- 渡部 和史 第2分団 団員
- 島山 直哉 第3分団 団員
- 村松 敏子 第4分団 部長
- 鎌田 大介 第5分団 部長
- 田中 稔輝 第6分団 部長
- 大場 繁治 第7分団 団員
- 井澤 秀和 第8分団 団員
- 大槻 啓子 第9分団 部長
- 新上 岳 第10分団 部長
- 田上 満照 第10分団 団員
- 野上 純子 第11分団 団員
- 増田 多美子 第12分団 部長
- 原田 麻美 第13分団 部長
- 渡邊 信之 第14分団 部長
- 山根 順子 第14分団 部長
- 中里 友則 第15分団 部長
- 竹田 陽子 第16分団 団員

## 救命講習指導功勞団員(10名)

- 平間 里美 第1分団 副分団長
- 鈴木 智美 第2分団 部長
- 眞田 令子 第6分団 部長
- 乾 紀子 第6分団 部長
- 竹内 典男 第7分団 部長
- 窪木 秀子 第7分団 部長
- 宮下 弘子 第8分団 部長
- 伊藤 美恵子 第9分団 団員
- 青木 ふじ江 第16分団 副分団長
- 山森 弘次 第16分団 班長

## 【防災部長賞】 救命講習指導功勞団員(3名)

- 山岡 育代 第3分団 班長
- 相内 一路 第13分団 部長
- 宮野 孝江 第16分団 団員

## 【第七消防方面本部長賞】 救命講習指導功勞団員(4名)

- 稲葉 貫太 第1分団 団員
- 伊藤 よしえ 第3分団 団員
- 浅野 貴美子 第4分団 部長
- 推野 栄子 第5分団 副分団長

## 入団促進功勞団員(1名)

- 金井 進一 第11分団 団員

## 【本田消防署長賞】 最優秀分団

- 第12分団
- 第2分団
- 第6分団
- 第4分団
- 第7分団
- 第16分団

## 優良分団

- 第4分団
- 第7分団
- 第16分団

## 優良団員(8名)

- 大門 美恵 第1分団 団員
- 長島 弘子 第2分団 班長
- 須釜 亮 第5分団 団員
- 大竹 侑稀 第6分団 団員
- 本田 哲宏 第10分団 団員
- 阿部 克美 第11分団 団員
- 栗山 寿敬 第12分団 団員
- 宮野 孝江 第16分団 団員

## 救命講習指導功勞団員(3名)

- 渡部 和史 第2分団 部長
- 梅田 信昭 第3分団 団員
- 本田 哲宏 第10分団 団員

## 入団促進功勞団員(2名)

- 平野 義明 団本部 副団長
- 井岡 進 第7分団 副分団長

## 【葛飾区長賞】 優良団員(15名)

- 武田 晋 第3分団 団員
- 古川 学 第4分団 団員
- 飯塚 彰子 第4分団 団員
- 清水 和紀 第5分団 団員
- 櫻田 亜夢美 第6分団 団員
- 山口 隆也 第6分団 団員
- 榎 壮一郎 第9分団 団員
- 高瀬 絵里衣 第11分団 団員
- 遠見 直紀 第12分団 班長
- 高橋 力 第13分団 団員
- 中西 海仁 第13分団 団員
- 澤野 英道 第14分団 団員
- 平良 翔太 第15分団 団員
- 古晒 貴光 第16分団 団員
- 田村 政志 第16分団 団員

## 【葛飾区議会議長賞】 最優秀分団

- 第12分団

## 【消防総監感謝状】 団歴40年以上のご家族(1名)

- 矢島 和夫 矢島 優子様 令夫人

## 【本田消防署長・本田消防団長感謝状】 (連名)

- 団本部 副団長 平野 義明
- 副団長 平野 業子様
- 令夫人 伊藤 嘉里
- 副分団長 伊藤 淳一様
- 分団長 中村 正則
- 令夫人 中村 邦子様
- 副分団長 中村 常行
- 令夫人 茂木 理枝様
- 副分団長 茂木 裕介
- 令夫人 佐藤 文子様
- 班長 伊藤 雅良
- 御令妹 伊藤 慶子様
- 部長 手島 由紀子
- 御夫君 手島 富雄様

## 【本田消防団長賞】 優良団員(14名)

- 金 宇琦 第5分団 団員
- 上林 弘幸 第5分団 団員
- 関根 弘典 第6分団 団員
- 中村 将吾 第6分団 団員
- 宇田川 幸則 第9分団 団員
- 金井 進一 第11分団 団員
- 中松 圭 第11分団 団員
- 平光 ゆきみ 第12分団 団員
- 茂木 年男 第12分団 団員
- 井出 碧惟 第13分団 団員
- 石川 聖 第13分団 団員
- 長崎 淳 第14分団 団員
- 加藤 一章 第14分団 団員
- 渡邊 正紀 第16分団 団員

## 入団促進功勞団員(11名)

- 阿久根 幸祐 第3分団 団員
- 望月 雅人 第4分団 副分団長
- 岩崎 新一郎 第4分団 副分団長
- 須釜 亮 第5分団 部長
- 百瀬 敏明 第6分団 部長
- 田中 稔輝 第6分団 部長
- 野田 裕子 第7分団 部長
- 大槻 啓子 第9分団 部長
- 茂木 年男 第12分団 部長
- 原田 麻美 第13分団 団員
- 小堀 泰克 第14分団 部長





特別区消防団員の地域防災力向上のための特別研修

令和5年11月、令和6年2月に、関東大震災から100年を節目に、都市部を中心に被害が発生した、阪神淡路大震災が起きた神戸に研修へ行きました。

本田消防団からは、16名が参加しました。

最初の目的の地は「神戸港震災メモリアルパーク」。続いて阪神に向かって、淡路大震災防災慰霊と復興のモニタメントを見学しました。

翌日は、「北淡震災記念公園」にて、元地元消防団員の話聞き、その後、地震によって破壊された道路や、地震断層が横切る民家などを見学しました。

今回の視察研修を通して、  
① 備えや訓練を含めた、消防団員としての防災意識の重要性  
② 近隣所とのコミュニケーションの重要性

③ 家屋の耐震、住民への情報伝達方法の確立、災害に強い町づくり  
④ 災害後の心のケアの重要性  
などを学ぶことができました。

(本田消防団副団長 石井 義則)



女性研修への参加で技術を磨きたい思いが、これまで以上に強まった

令和5年12月16日、消防学校で実施された「女性研修」に参加させて頂きました。研修には、東京都内の女性消防団員数十名が参加されていました。私が、20代でも私より長く経験を積んでいる方もいれば、離島から参加している方もいました。さまざまな世代、さまざまな地域に仲間がいることがわかり、大変うれしく感じたと同時に、自分もその一員としてさらに精進していきたい気持ちが高まりました。

研修終了後には、「消防団員の一人であることに誇りを持って来年はもっと活躍していきたい」との目標を持つこともできました。

しかし、決意を新たにした矢先、元日の能登半島地震のニュースが流れ、自分のなかに大きな衝撃が走りました。地震大国といわれる日本においては、誰にとっても「明日は我が身」となりかねません。万が一の事態はいつでも起こり得ることを念頭に置いて、「備えよ常に」をモットーに、地域のみなさんの安全で快適な暮らしをサポートしていきたいです。

最後になりますが、こうした機会を設けてくださった関係者のみなさま、本当にありがとうございました。  
(第1分団団員 大門 美恵)

待望の積載車

令和6年1月28日、『東京消防庁消防学校』にて開催された「第56期特別区消防団機関科研修」に団員4名で参加してきました。

研修の前半は座学でした。私は日ごろ、第4分団の機関員として、分団本部、各地域に配備されている機材、ポンプの点検をおこなっているのですが、今回の研修では、積載車に関する点検項目は通常の約2倍にも及ぶことや、ポンプ構造、水力学、吸水原理など多くのことを学ぶことができました。

座学が終了した後は、学んだことを実際に体験する機会にも恵まれました。自分の身をもって学べたことから、非常に有意義な時間を過ごすことができました。



今後はまず、研修で学んだことを団員らしにしっかりと伝えたい。うえで、これからの活動に活かしていきたいと考えています。また、2月16日には、待望の積載車が第4分団に配置されました。

今まで以上に地域の安全・安心を目指し貢献できるようがんばっていきます。  
(第4分団班長 伊藤 誠)

研修会への出席を通して消防団員としての心構えを確立することができた

令和6年2月10日、『江戸川区総合文化センター』でおこなわれた「令和5年度 第7方面支部消防団幹部研修会」に出席しました。研修会では、講師として日本のみならず海外でも輝かしい救助の経歴を持つておられる、元東京消防庁 吉樂隆男講師による講義がおこなわれました。

演題は、「自然災害に備える、人に寄り添う消防の心意気」です。吉樂講師の豊かな経験から発せられる一句一句が自分の心に響きました。私には十分すぎる内容で、これからの消防団活動をおこなうにあたって大きな指針となったことは確かです。  
(第13分団部長 相内 一路)





## 令和5年度女性消防団員研修に参加して



令和6年2月25日、今にも雨が降りそうな寒い朝でした。7時15分の消防団係員の集合に到着すると、駐輪場、受付担当の女性委員がすでに配置に就いてくれていました。7時40分には受付も終わって乗車が始まり、2台のバスで本田消防署を出発。午前中は阪神淡路大震災のビデオを見ながら、震災時の消防団活動についての研修で、1号車は佐藤係長、2号車は菊池統括によって進められました。海ホタルPAを過ぎた頃から雨が降り出しましたが、途中、「はちみつ工房」を見学するなどして大橋署長の講評で研修を終了しました。12時、「ザ・フィッシュ」で楽しい昼食、買い物のおとときを過ごし、14時には道の駅おつみの里「花俱樂部」で花摘みを楽しみました。17時には無事故で署に到着。解散となりました。消防署のみなさん、ご協力大変ありがとうございました。

(女性委員長 倉持 恒夫)

## 女性消防団員研修に参加して



2月26日、女性消防団員研修に参加してきました。OB会から参加したのは私一人でした。

朝から雨が降っていました。午前中はバスの中で阪神淡路大震災概要説明と震災時の消防団活動についての研修内容を佐藤係長さんから話をして頂きました。ビデオは見られなかったのですが、今年の1月1日の能半島地震をテレビで消防団員の活動を見ていたことを思い出しました。

広報誌の「ひのみやぐら」に初版から携わらせていただけてきましたが、原稿は初めて書かせていただきました。

(本田消防団OB会 島村 多佳子)



## 救命講習で消防総監賞を受賞

サラリーマン時代は仕事が多忙で、活動する場が少なかつた救命講習指導。定年退職後は、できるだけ活動の場を広げたいと考えておりましたが、世界中が新型コロナウイルス感染症に苦しめられたのは記憶に新しい通りです。しかしその後、長いコロナ禍が明け救命講習会も再開。救命講習の指導員として、区内の多くの会場で活動させていただいた結果、消防総監賞を受賞することができました。

会場を受講されたみなさんには、一生懸命に取り組んでいたいただきました。心肺蘇生・AEDの使い方を身に付けることで、万が一のときに大切な命が救われます。消防団員として、その一端を担えたことはうれしく思います。今後も精進していく所存です。

(第16分団班長 山森 弘次)



## 『地域感謝の集い』にて消防団員募集活動を実施

令和6年2月23日、『四ツ木斎場』にて「東京博善株式会社」が主催した『地域感謝の集い』において、消防団員募集活動を実施しました。

当日は、みぞれ混じりの寒い天候の中、多数の方々がご来場されました。

今回の募集活動においては、ご来場された方々にお声がけをして、「消防団員募集」のパンフレットなどをお渡ししました。最後まで話を聞いてくださった方々の中には、「女性でも消防団活動はできるの？」など興味を示された方もおり、非常に手応えがありました。

今後消防団としての在り方や、地域防災への大切さなどをアピールしていきたいと思っております。次回も募集活動を一生懸命頑張ります。

(募集委員 高橋 良子)

